



Arcserve Email Archiving Cloud マイグレーション作業時の考慮点

2023/10 (Rev: 1.1)

**Arcserve Email Archiving Cloudは
2023年 9月 29日 販売を終了いたしました。**





目次

1. [はじめに](#)
2. [ストレージ領域の考慮](#)
3. [マイグレーションの準備](#)
4. [マイグレーション作業時の注意点](#)
 - 4.1 [メールドメインの考慮](#)
 - 4.2 [アーカイブ運用中の考慮](#)
 - 4.3 [マイグレーションに使用するディレクトリの考慮](#)
 - 4.4 [メールファイルパーミッションの考慮](#)



1. はじめに

本資料は Arcserve Email Archiving Cloud のマイグレーション（メール ファイルからのアーカイブ）作業を実施する際に実際にお問い合わせが多かった注意点をまとめた資料です。実際に作業する前に必ず一読いただくことをお勧めします。

本資料には製品機能説明は含めていないため、Arcserve Email Archiving Cloud の機能をご存知でない方は「ご紹介」資料、もしくは「スタートアップガイド」を事前にお読みいただいてから作業を進めてください。

【ご注意】

記載内容は Arcserve Email Archiving 製品にも共通していますが、Arcserve Email Archiving Cloud のストレージ領域（/Archiving）に限定した記載内容にしています。Arcserve Email Archiving では、以下「Arcserve Email Archiving スタートアップガイド」P17 “ボリュームの追加手順”にて/archivingボリュームが追加された前提の環境として読み替えてください。

Arcserve Email Archiving/Arcserve Email Archiving Cloud ご紹介資料

<https://www.arcserve.com/wp-content/uploads/2020/06/ema-presentation.pdf>

Arcserve Email Archiving スタートアップガイド(ボリューム追加手順は、こちらのガイドに記載されています)

<https://www.arcserve.com/wp-content/uploads/2020/06/ema-guide.pdf>

Arcserve Email Archiving Cloudスタートアップ ガイド

<https://www.arcserve.com/wp-content/uploads/2020/06/emac-startup-guide.pdf>



2. ストレージ領域の考慮

メールファイルからのマイグレーション処理には、**一時的に対象のメールファイルサイズの最大3倍※**のストレージ容量が必要になります。マイグレーション中にメールサーバからのアーカイブも並列運用する場合は、さらにその容量も合算し、必要なストレージ容量を見積もる必要があります。

※ アップロードした圧縮メールファイル + 圧縮展開したメールファイル + アーカイブ保存されたメール



Arcserve Email Archiving Cloudの契約容量は /archiving ボリュームとして追加されます。

マイグレーションでは、この領域を一時利用しアップロードしたメールファイルをインポートします。

マイグレーション作業完了後は、マイグレーションに使用したメールファイルは**すべて削除**することができます。

ストレージ契約容量を節約するには、**可能な範囲で小分けに**マイグレーションすることをお勧めします。

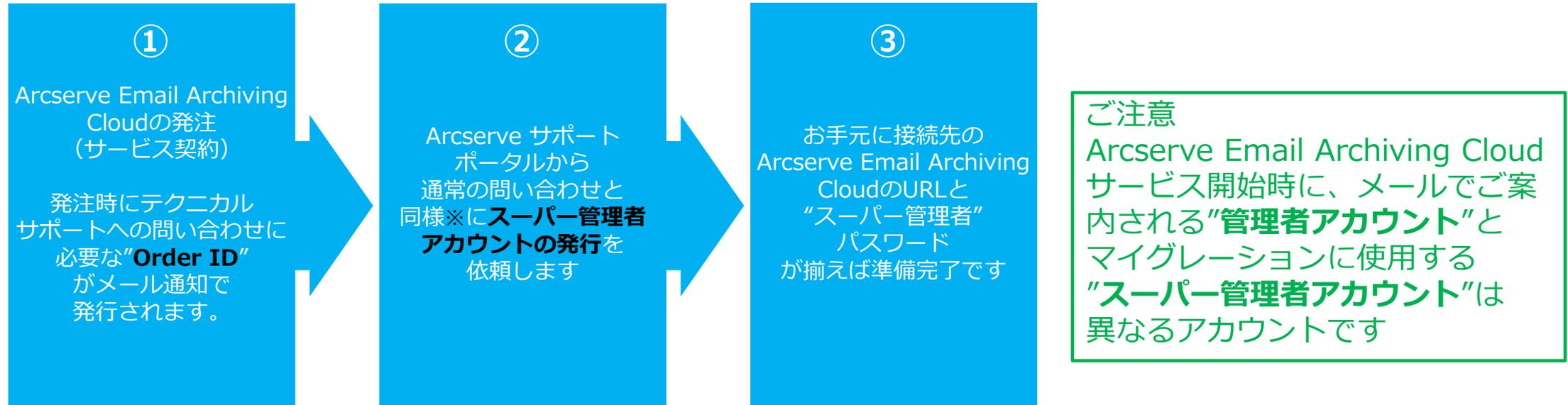
作業中も「[マイグレーションに使用するディレクトリの考慮](#)」に記載したように空き容量に注意し、容量が不足すると思われる場合は、事前にストレージの追加をご検討ください。



3. マイグレーションの準備

マイグレーションを実施するには、**スーパー管理者アカウント (udp_admin)** で、Arcserve Email Archiving Cloudに接続し、メールファイルをSCP方式でアップロードする必要があります。

この際に使用するスーパー管理者アカウント (udp_admin) は、Arcserve テクニカル サポートへご依頼いただければ、アカウントのパスワードの一時貸与を手続きいたします。ご申告の際に貸与期間（おおよその作業に要する期間）も、併せてお伝えください。作業開始後に期間が不足する場合は延長も可能です。



※ テクニカル サポートへのお問い合わせ方法は「Arcserve サポート ポータル マニュアル」をご参照ください
<https://support.arcserve.com/s/article/202937699?language=ja>



4-1. メール ドメインの考慮

一般的なメールアドレスは“アカウント名”@“メールドメイン”の形式で扱われます。

Arcserve Email Archiving Cloudでは、**事前登録いただいた“メールドメイン”**（複数指定可）が送信元アドレス、受信先アドレス、CCアドレスに含まれるメールを対象に検索機能を提供します。

※ 製品仕様として、メールサーバからリダイレクトされたメールに登録ドメインが含まれない場合でも、全メールがアーカイブされますが、このようなメールを検索することはできません。この場合は、Arcserve テクニカル サポートに対象ドメインの追加を依頼し、管理者で作成したアカウントに対象ドメインとして追加いただくことで検索が可能となります。

メールファイルからのマイグレーションで未登録ドメインがアドレス指定されたメールが存在する場合、マイグレーション ディレクトリ内の“Failed”フォルダに移動され、アーカイブ対象外としてエラーになります。このようなメールも含めマイグレーション対象とする場合には、マイグレートコマンドに“-a”オプションを追加することでアーカイブ対象に含めることができます。

実行例

```
$Migrate -a -D /archiving/maigration/archive-from-file -T 3
```

-a以外のオプション仕様についてはスタートアップガイドをご参照ください。

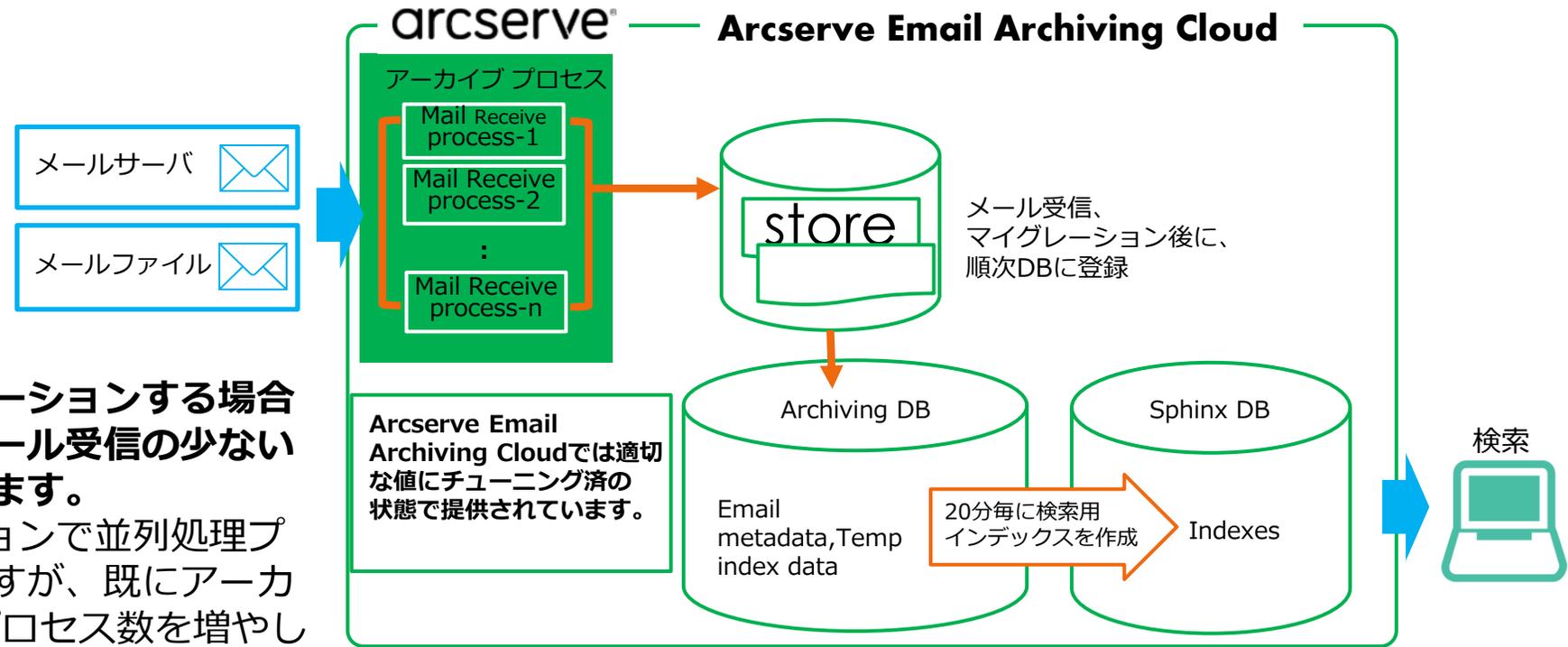
ご参考) Arcserve Email Archiving Cloudスタートアップ ガイド P18 「5.5 Migrate コマンド オプション」

<https://www.arcserve.com/wp-content/uploads/2020/06/emacs-startup-guide.pdf>



4-2. アーカイブ運用中にマイグレーションする場合の考慮

メールサーバからのアーカイブ処理と、メールファイルからのマイグレーションのどちらも同一の処理スレッドを経由します。



大量のメールファイルをマイグレーションする場合は、アーカイブ運用開始前か、メール受信の少ない時間帯に実施することをお勧めします。Migrateコマンドには、-Tオプションで並列処理プロセス数を指定する機能がありますが、既にアーカイブプロセスが高負荷の状態ではプロセス数を増やしても時間短縮することはできません。

※ Arcserve Email Archiving でのアーカイブ プロセス数上限値の変更方法についてはサポートへお問い合わせください



4-3. マイグレーションに使用するディレクトリの考慮

- a. マイグレーションでは一時的に大量のメールファイルが /archiving/migration サブディレクトリに保存されるため、アーカイブ保存先領域の/archiving全体の空き容量が圧迫されます。処理中に容量不足でアーカイブやマイグレーション処理が停止することが無いよう、定期的に空き容量のチェックを行いながら作業を進めてください。マイグレーション対象のメールファイルは、マイグレーション後に削除できますので、十分な空き領域が確保できないことが予想される場合は、マイグレーションを小分けに実施してください。/archiving ディレクトリの使用量が、80%を超えた時点で購入時に指定したメール アドレスにアラート メールが送信され、**90%を超えた時点で新しいメールのアーカイブが停止**します。
- b. マイグレーションでアーカイブするメールファイルが多数あると、割り当てたボリュームの空き容量に関係なく、**i-nodeが枯渇して大幅なパフォーマンス低下を引き起こす**場合があります。i-nodeの利用状況もチェックしながら、マイグレーション終了後の不要なファイルは削除しながら作業を進めてください。

例) df コマンドを使用したi-nodeの利用状況のチェック

```
$df -i
```

```
udp_admin@caj-e2e1:/archiving$ df -i
Filesystem            Inodes   IUsed   IFree  IUse% Mounted on
udev                  1012939    391  1012548    1% /dev
tmpfs                  1018322    619  1017703    1% /run
/dev/mapper/vg-root    3982080 268302  3713778    7% /
tmpfs                  1018322     1  1018321    1% /dev/shm
tmpfs                  1018322     3  1018319    1% /run/lock
tmpfs                  1018322    17  1018305    1% /sys/fs/cgroup
/dev/cdb1              62248     242   61906    1% /boot
/dev/mapper/archiving_vg-archiving_lv 73793536 140433 73653103    1% /archiving
tmpfs                  1018322    13  1018309    1% /run/user/1002
tmpfs                  1018322    13  1018309    1% /run/user/1001
udp_admin@caj-e2e1:/archiving$
```

注:マイグレーション作業の詳細は、Arcserve Email Archiving Cloud スタートアップガイド P.11を参照してください。

ご参考 「Arcserve Email Archiving Cloud スタートアップ ガイド」

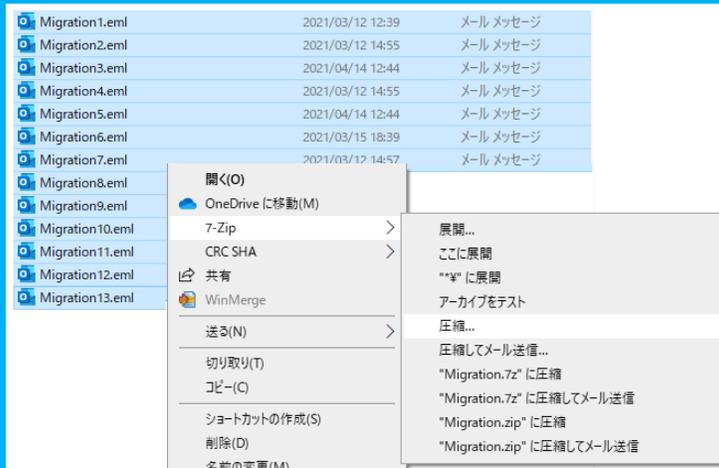
<https://www.arcserve.com/wp-content/uploads/2020/06/emac-startup-guide.pdf>



4-4. メールファイル パーMISSIONの考慮

Arcserve Email Archiving CloudのMigrateコマンドでは圧縮形式のファイルから直接メールファイルを自動展開し、アーカイブすることができます。しかし、マイグレーションで使用するコンソールは Debian Linuxのため、Windows上のサブフォルダを含め圧縮ファイルを作成した場合、**展開後のサブディレクトリへのアクセスやファイルのパーMISSIONが不足し、Migrate処理に失敗することがあります。**以下の手順の要領で**手動による圧縮展開とパーMISSION確認及び変更**を実施後、マイグレーション作業を開始することをお勧めします。

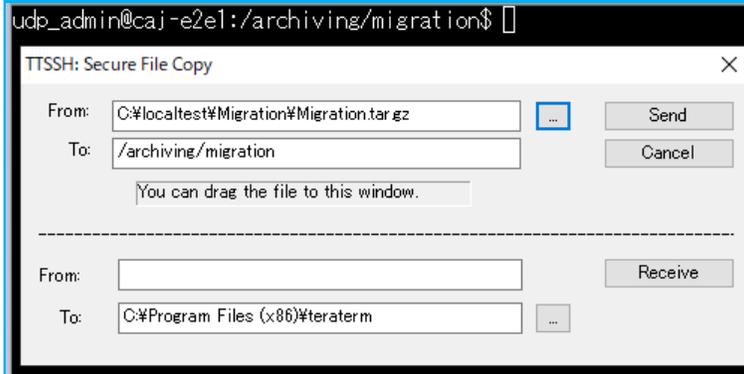
① サブフォルダを含めず圧縮ファイルを作成



この例ではWindowsにインストールした7-zipを使用してtar.gzファイルを作成しています。

② /archiving/migration に圧縮ファイルをアップロード

※ /archiving/migration 以外のディレクトリにアップロードしないでください。



この例では teraterm を使用してtar.gzファイルをアップロードしています

③ 圧縮ファイルを/archiving/migration直下に展開

\$ tar -zxvf Migration.tar.gz
(任意のtar.gzファイル名を指定します)

④ メールファイルにフルアクセス権を付与

\$ chmod 777 *.eml

⑤ 展開とアクセス権を確認後、圧縮ファイルを削除

\$ rm Migration.tar.gz
(Migrateコマンドがtar.gzを自動展開しないよう、削除します)



その他の情報とお問い合わせ先



価格表

<https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/licensing-options/>

✓ 新規ライセンス、メンテナンス更新価格のSKUなど詳細を確認できます。



カタログ センター

<https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/catalog-center/>

✓ カタログ、製品情報、よくあるご質問と回答、お客様事例などを参照できます。



製品マニュアル

<http://documentation.arcserve.com/Arcserve-Email-Archiving/available/JPN/Content/Home.htm>

リリースノート、展開および構成ガイド、管理ガイドを参照できます。

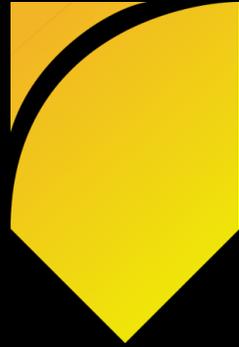


Arcserve ジャパン ダイレクト (購入前のお問い合わせ)

フリーダイヤル： 0120-410-116

(平日 9:00~17:30 ※土曜・日曜・祝日・弊社定休日を除きます)

<https://www.arcserve.com/jp/about/contact/>



arcserve®